

筑波大学新聞

第272号

編集責任
筑波大学新聞
編集委員会
委員長 荻野祥三

TEL: 029(853)2040-6699
E-mail
shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

月刊

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

紙面から

JAXAと連携協力協定	2
第1回天の川学会 改修案を検討	2
逢坂教授 世界初の宇宙芸術作品	5
陸上 男子5年ぶりの総合優勝	6
水泳 入江が大会新を樹立	6
本学オリジナルトイレレットペーパー製作	7

特集 4
スポーツ嫌いでも楽しめる
筑波大学の共通体育

おことわり

今月号は8面構成で発行しました

史を概説した。講演の最後
では、「学部の間壁」がない
などの本学独自の利点を生
かす、「総合科目をどう
のようにして構造化する
かが重要になってくるのでは
ないか」と、本学の教養教
育の展望を述べた。

筑波の丸

本学には土俵
がある。武道館
1階の奥、道場
の脇の閉ざされ
た場所にはそれ
が存在する。以前
は相撲同好会のような
ものがあり、稽古が行わ
れていたが、今は解散し
てしまったようで、近所の
相撲愛好家が子供力士連
の指導のために使用して
いるだけと聞く。国技で
ある相撲。その頂点に君
臨する人の横綱はどち
らも外国人だ。更に、現
在の幕内上位の約半数を
外国人力士が占めている
というのが現状だ。人以
外の世界でもカミツキカ
メやフラックバス、セイ
タカアワダチソウなど
多くの外来種が日本に流
入している。▼そのことが
生態系に影響を及ぼし、
さまざまな議論が起っ
ている。その点は、外国
人力士のマナーなどが批
判を浴びたりしているの
と、似ていなくもない。
しかし見方を変えれば、
彼らは自ら住みなれた
環境を離れ、新しい土地
でその力を一杯に奮っ
ているのだ。彼らにした
たかに生きる力を見た▼
筑波大学は陸の孤島。
本学での生活は、TX開
通後の現在でも、外見、
つまり大学周辺地域以外
との接触が少ないゆるま
湯のような村社会なので
ある。ここでの生活は快
適かもしれないが、やが
ては世界という土俵で闘
わなければならない。海
を渡って来た彼らのよ
うな生きる力を得るため
に、新たな環境でぶつか
り稽古をするべきなので
はないだろうか。

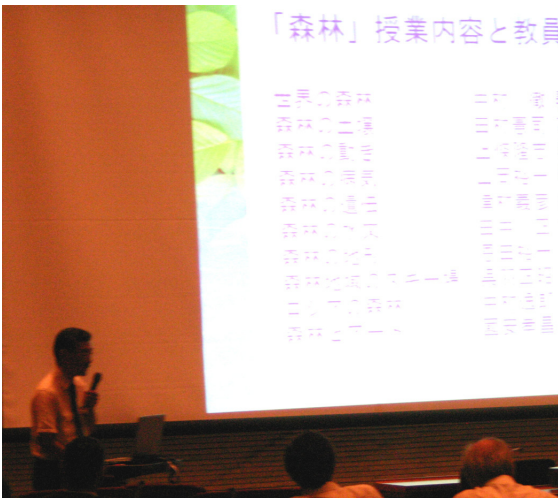
総合科目FD研修会

高評価科目の教員が講演

理解しやすさ心掛ける 教養教育への提言も

来年度に向けて総合科目の検討を行う「平成20年度第1回総合科目FD研修会」が9月26日の午後3時10分から、大学会館国際会議室で開かれた。総合科目のオーガナイザー教員や学生など合わせて約50人が参加した。1学期に実施された「学生による授業評価アンケート」の分析結果が報告されたほか、オーガナイザー教員による講演などが行われた。

研修会ではまず、総合科目編成委員長の金井幸雄教授(生物圏)から、今年度の総合科目の履修状況授業評価アンケートの分析結果が報告された。1学期にアンケートが実施された53科目の満足度の平均は80.4%。そのうち33科目で80%を超える高く、高い評価を受けた。一方、6つの学類・専門学群で所属学生



授業内容について映像を交えて話した

の3割以上が自学開講の科目を受講するなど、自分の専門に近い分野の科目を選択する傾向が出た。結果を受け金井教授は「筑波スタンダード」が掲げる豊かな教養をばくむための科目として、総合科目が十分に機能しているかについては、さらに検証が必要である」と総括した。

オーガナイザー教員による講演では、まず前年度から20ポイント以上満足度が上昇した「心の実験室」の加藤克紀准教授(感性)が講演を行った。加藤准教授は、前年度評価が低かった原因となった資料の使い方を再検討し、「学生がきちんと理解できるような授業を心がけた。その上で個々の先生方の努力が、評価上昇につながったのではないかと話した。続いて、授業評価アン

ケート8位で、前年度に続き10位以内だった「森林」の中村徹教授(地縁技術)が講演を行った。中村教授は「講義を行った。中村教授も、パワーポイントや写真などの視覚資料や、配布資

料の準備などを重視し、「易しく、優しい授業を心がけた」と述べた。高校を卒業したばかりの学生でも理解できる授業が、高評価のポイントになったようだ。

続いて、小笠原正明・本学特任教授が「日本の教養教育・世界の教養教育」という演題で講演を行った。小笠原教授は古代ローマから現代までの教養教育の歴史を、うち8棟が1の矢

△高木英明(たかぎ・ひであき) 58歳。1972年東京大学理学部物理学科卒。93年本学教授社会学系。02年副学長。06年から大学院システム情報工学研究科 経営・政策科学専攻長。

△山田信博(やまだ・のぶひろ) 56歳。1976年東京大学医学部医学科卒。99年本学教授臨床医学系内科(内分沁代謝)。03年附属病院長。07年から理事・附属病院長。

△井上勲(いのうえ・いさお) 58歳。1974年東京教育大学理学部生物学科卒。84年本学講師生物学系。96年教授生物学系。05年大学院生命環境科学研究所長。07年から学長特別補佐。

△田中二郎(たなか・じろう) 56歳。1975年東京大学理学部物理学科卒。93年本学助教電子・情報工学系。98年教授電子・情報工学系。07年からシステム情報工学研究科長。

学長選考 31日に学長予定者選出 4人が「ポスト岩崎」争う

岩崎洋一学長の任期が今年度末で満了することに伴い、学長選考会議は学長候補者を9月26日に公表した。4人が本学教員の推薦を受け、「ポスト岩崎」の座を争う。学長予定者は10月31日に決定する予定だ。今回推薦された候補者は高木英明教授(社)ン・

システム情報工学研究科 経営・政策科学専攻長、井上勲教授(構造生物・学長特別補佐)、山田信博(附属病院長)、田中二郎教授(CS・システム情報工学研究科長)の4人。各候補者の推薦書、推薦者名簿、所信表明書などの公示は10月8日に行われ、10月29日の学

内意向投票、31日の学長選考会議を経て学長予定者が選出される。学内意向投票は午前8時半～午後3時の間に行われる。また、不在者投票も10月9～28日の期間、午前8時半～午後5時半の間に行われる。

なお、候補者の経歴は以下の通り。

アスベスト再調査

新たに15棟で対策必要に 調査結果の説明会も開催

今年度になり、文部科学省から新たに3種類のアスベスト(石綿)について、使用の有無の分析調査の徹底が通知された。これを受け本学では、新たに176棟(約83000平方メートル)について再調査を実施。調査の結果15棟(約6811平方メートル)に対策が必要だと分かった。現在すでに、15棟それぞれについて空気をサンプリングし、空気中に飛散しているアスベストの量の測定が完了している。検査では一般の空気中濃度と変わらぬ結果が得られた。

本学では、平成17年度から文科省の通知に基づいてアスベスト使用の実態調査を行い、改修工事を進めて来た。17年度は、重量比1%を超えてアスベストを含有するものについて調査を行い、92棟(約82400平方メートル)のアスベストを除去。その後「労働安全衛生法施行令」及び「石綿障害予防規則」などの一部が改正され、18年度から0.1%を超えてアスベストを含有するものについて調査が必要となった。これにより、17年度の時点で対策が不要だった棟について再調査が行われ、うち9棟(約2660平方メートル)で対策が必要と判明した。

そして今回、国内では使用されていないとされてきた種類のアスベスト3種が、実は国内で使用されていたことが分かり、文科省が調査範囲を拡大する通知を出した。新たに調査の対象になったアスベストは、レモライトなど3種。再調査された176棟のうち、対策が必要になったのは15棟(約6811平方メートル)で、うち8棟が1の矢

の説明会を、9月25日と10月1日に平砂及び1の矢共用棟の食堂で行った。施設部は「アスベスト対策連絡会」において、工事可能な時期や撤去のための予算について学内で検討し、出来るだけ早くアスベストを除去したい」と話した。

つくば 歳時記

9月10日に農林技術センターで行われた稲刈りの様子。5月に植えた苗が黄金色に実り、稲穂を垂らした。稲の海が一面に広がっている。秋晴れの空の下、生物資源学類の学生らが収穫に汗を流した。楽しそうに稲刈り機を押す女子学生の笑顔がまぶしい。(撮影・高橋俊樹(社会学類))



JAXAと連携協力協定

宇宙に活動の場拓く

共同研究・人材育成に期待
連携講座開設案も

本学は9月17日、宇宙航空研究開発機構(JAXA)と連携協力協定を結んだ。締結式は本学本部棟で開かれ、岩崎洋学長とJAXA立川敬二理事長が協定書に調印し、握手を交わした。本学と独立行政法人との協定は、今回で4例目となる。



握手を交わす岩崎学長(左)と立川理事長

本協定は本学と同機構の連携により、「本学での研究領域の拡大や大学院での積極的な人材育成の実現」がJAXAにおける宇宙・航空に関する研究・開発の推進、「研究学園都市での共同研究・開発および教育・研究の促進」を目指す。これまで両機関は、宇宙航空関連の基礎・基盤技術などの共同研究や研究者レベルでの交流を続けてきた。それに加え、本学が総合大学である点を生かし、人文社会科学や医学、芸術など幅広い分野での共同研究や人材の育成・交流を実施することを検討。本協定締結の運びとなった。

立川理事長は、国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」の利用について、

プール改修工事

漕内の塗装をやり直す
屋内外とも既に完了済み

本学の屋内及び屋外プールの改修工事が7月16日に着工された。屋内プールは8月末に工事が完了し、屋外プールについても9月下旬から使用可能になった。来年度6月に日本水泳連盟が行う公認プールの定期検査に備えて、以前の検査で指摘のあったプール内面の塗装をやり直したものだ。日本水泳連盟の公認したプールで出た記録でなければ、公式記録として認められないため、本学のプールは5年ごとに公認更新の検査を受けている。前々回の平成11年度の検査でプール内面の塗装の劣化が指摘され、今回、予算の確保が出来たため改修工事を行うことになった。

仕様書により、プールの塗装は4回行わなければならない。1回の塗装につき塗料の乾燥に数日を要することもある。8月後半に雨が続き、屋根のなみだりが溜まり、開放されている日にまた泳ぎに来たいと語った。

警察署から感謝状
窃盗犯を御用

本学準研究者 石川美久さんに感謝状を贈った。事件が発生したのは6月25日午後6時ごろ。犯人の男は武道館1階更衣室で本学学生の財布から1万円を抜き去ったところ、持ち主に遭遇した。石川さんの同僚で同じく体芸支援室準研究者の田中洋平さんが、柔道部でコーチを務める。改修が完了したプールで泳いだ女子学生は「老朽化が進んでいると聞いていたが、プールの中はとてもきれいだ。開放されている日にまた泳ぎに来たい」と語った。

「宇宙で様々な分野の活動が出来る場を提供することで、新しい文化の創成があればよい」と期待感を示した。また、宇宙に関する法・条約の策定に向けた本学の法学面での協力についても言及した。岩崎学長は「学問の幅が広がり、質が向上すること」に期待している。今後は両機関の代表者で構成する運営委員会を通じて、具体的な方策を決定していく方針だ。現在、JAXAの研究所で学生を教育する、連携講座を開設するなどの案が挙がっている。



表彰状を掲げる石川さん(左)と田中さん

BSリーグ

生物科学者の卵を支援
卒論級の研究応募も

本学は6月2日、科学技術振興機構が支援する「未来の科学者養成講座」平成20年度実施機関に採択された。本学の他に京都大など4大学が選ばれている。本学では生物学類が中心となり、BSリーグ(Biological Science League)という企画を立ち上げた。BSリーグは生物科学に興味のある小・中学生を対象に、研究指導・支援、学習指導を高校卒業まで行う「特待生プログラム」のことである。第一期生の募集により、18人のBSリーグ生が誕生した。

今回の募集では書類審査として個人の研究報告が課せられていた。送られてきた資料はどれもレベルが高く、研究テーマが大学卒論級のものや全文が英語で書かれているものもあった。アリの一種であるトゲアリの社会集団(コロニー)形成について2年間に及ぶ研究成果を報告する資料には、担当者一同驚いたという。現在BSリーグ生は来春に開催される「つくば生物研究コンテスト」に向けて研究テーマを決定した所で、BSリーグ担当の尾崎好美さんは「未来の科学者養成講座」は従来の底上げ教育とは違い、トップ層の養成に重きを置いた取り組み。BSリーグ生を指導する立場になる大学院生のレベルアップにもつながると思う」と語った。



双峰祭で一般開放
裁判員制度に備えて

模擬法廷リニューアル

来年度5月から始まる裁判員制度に際し、本学の模擬法廷が1B108にリニューアルされた。10月11日に新模擬法廷のお披露目が行われ、雙峰祭期間中も行われ、来年度3月をめどに改修工事を施工したい考えだ。施設部では、環境整備に1500万円ほどの費用がかかる見通し。

12、13日には学生、一般市民に向けた開放及び質問会も開かれる。お披露目参加の事前申し込みはすでに締め切られたが、開放には誰でも参加できる。1B109にあった以前の模擬法廷は正面に裁判官席が3席あったが、今回のリニューアルで、その横に6人の裁判員席が設けられた。裁判員を必要としない民事裁判の模擬裁判もできるように、裁判員用の6席は可動式となっている。傍聴席も約20席から40席へ増えた。また、1B109は裁判員の控室、1B110は評議室となり、これも裁判員制度に備えての変更だ。どちらも講義やゼミに活用できるつくりになっている。本澤巴代子社会学類長は「百聞は一見に如かず。今後は本学生はもちろ

教授の処分検討
対策呼びかける

総合研究棟の案内で女性の体を触るなどわいせつな行為をしたとして、9月19日、今川重彦教授(53歳・スゴ医)が逮捕された。本学は法的判断が下された段階で、調査委員会を立ち上げ、処分を検討する予定だ。多くの人に法廷の感覚をつかんでほしい」と語る。今後は本学生はもちろ

今川教授は、行為そのものは認めているが、「合意の上だった」と話しているという。わいせつ行為が行われた研究室は、ガラス張りになっているが、書棚とカーテンで外から見えないようになっていた。本学はこの事件を受け、研究室などで異性と一対一になる際には、ドアを開けることの徹底を呼びかけ、本学ではハラースメント防止対策委員会が組織され、対策に当たっている。連絡先は、本学ホームページや「STUDENT T-S」速報つくば」などに掲載されている。

藻類除去など改修案を検討
3月の施工を目標に

第1回「天の川学会」

「第1回『天の川学会』が9月25日、第3エリア食堂で開かれ、本学生や教員、施設部職員のほか、腰塚武志副学長が出席した。ウォータフロントプロジェクト(WFP)が去年から2カ年計画で進めてきた天の川改修プロジェクトに向け、社工、生質、芸術など各学類の教員がそれぞれ提案を発表し、WFPメンバーの学生が施工案を報告した。腰塚副学長は、本イベントの感想を「これぞ本学が目指す学際教育。今まで上手に位置づけられていなかったこのような取り組みを応援していきたい」と話した。

本イベントは、本学のシンボルでもある天の川の抱える問題を学生・教員・職員の間で共有することを目的に開催された。村上暁信講師(社工)は、「川のきれいになれば」と話す。

WFPでは特に、天の川で繁殖する大量の藻類を除去・抑制することを主な修案を計画。昨年度から続けてきた調査の結果を受け、「新しいポンプを設置して、流水量を増やし、稼働時間を伸ばす」、「緑石を設置して、日陰を作る」、「底材を敷設して、川底に酸素を供給し、堆積物の分解を促す」、「可動せきを建設して、川の環境を自然に近づける」ことなどを検討している。

今後WFPは具体的なプランを固め、施設部と予算的な問題を含めて話し合

反射鏡

ムダ食い発見 家計簿の活用

岩田 祿(看護2年)

私の節約術、それは「家計簿」をつけることだ。最近気がついた。昨年、つづばに引越してきて、ひとり暮らしがスタートした。はじめは主婦気分をつけていたのだが、始めてみると意外とおもしろく、はまっていった。

お得な瞬間 安売りで自炊

隅田聖彦(国際1年)

買い物に行くレジシートを必ずもらい、帰ったらすぐに家計簿にその日の支出を書き込む。家計簿には、食費・日用品・趣味・交際などの費目分けがあり、その日の買い物もそれぞれの項目に振り分けながら書き

筑波時評

つづばはエクストラプレス開通に伴って沿線開発により、ここ数年、私の家からも森を越えて造船所のような大型マンションが多数見え、異様な景観である。研究学園駅には北関東最大級と言われているショッピングモールもまもなく開店する。買い物

ショッピングモールと 地域経済

空洞化進む中心市街地 地域資産の利用で復活も



大澤 義明

より一層競争が激化し、そのおろを既存中心市街地が最終的に引き受けることとなる。つづば市へ住み替える動きにより空洞化も加速するかも知れない。結果として、通

の甲斐もなく衰退の一途を歩み続けているところが多い。また、郊外店舗を出店を認める中心市街地を同時に活性化させることは、人口減少時代では難しいと単純に思うから



今月のテーマ 私の節約術

使わずもらおう
僕の節約4カ条
齋藤慶太(社工2年)
1、衝動買いはしない。
普段みなさん何気なくものを買っていますが、そのときにじつと考えることが必要だと思えます。よく考えてみる。と案外いらぬものもあつたりして無駄なお金を使わなくても済みます。僕もコンビニや自販機でつい飲み物を買ってしまいたくありませんが我慢しています。

留学生の目



ネヴェン ストピッチ

クロアチアの留学生で、ネヴェンと申します。私が日本に来てからもう一年間半たったが、どちらかといえば日本に来るのを全然後悔していない。家族やたかさんの友達をクロアチアに残してしまったのは私にとって本当に大きな悩みだった。日本と世界中の学生と知り合いになったり、何人かの学生が一生の友達になったりしたから



友に助けられ学ぶ日々

留学生の人数が日本一で、日本の政治の中心、つまり東京から近く、最後に政治専門科目だけ

でも節約になる。「お得な瞬間」をつかめば、自炊に対する負担感も減る。リスムをえつかめれば楽しい生活へと変わっていくはずだ。料理の腕もがって、いざ災害

ことになった。そこで、様々な国々から来た留学生たちと苦労しながら日本語を勉強していた。もちろん勉強だけでなく、いろいろなことを学びたいか、つまり私にとって一番楽しいことや一番適当な仕事は何かということに迷っていた。しかし、人権に興味を持ち、討論することが好きだったから政治を勉強することに決めた。その時、偶然に新聞で日本の文部科学省による奨学金プログラムについて記事を見た。あまり長く考えずに、合格をしないと思いつつ大使館で受験した。その結果、受験の9ヶ月後大阪で日本の授業を受けられるように日本語を勉強する

投稿募集

読者は1万人

本紙では皆様からの投稿を募集しています。

学内問題に対する意見
サークル案内 など

学生、教職員の方々の
多様な意見を
お待ちしております。



次号のテーマは
心に残る「曲」です

連絡先
TEL 0299-8566-9666
e-mail shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

スポーツ嫌いでも楽しめる

筑波大学の共通体育

体育専門学群を擁する本学では、必修科目、自由科目合わせて30科目以上の体育の授業が履修できる。その中には運動が得意な学生でも楽しめるものや、高校時代までにはおそくお目にかからなかったであろうものも少なくない。今回は数多くある中から4科目を取り上げ、授業の様子などに迫った。(本紙・雪丸千彩子Ⅱ人文学類、磯野潤高橋俊樹Ⅱ社会学類、島本剛司Ⅱ社会学類)

ニュースポーツ

ニュースポーツとは競技性を重視せず、誰でも参加できることを目的としたスポーツの総称である。私たちがとってまた馴染みの薄いこのスポーツについて、長谷川悦示准教授(体育)に話を聞いた。

長谷川准教授が担当する授業では、1学期にフリスビーリアルティメット、2学期にフラッグフットボール、3学期にゾーンサッカーを行っている。

フリスビーリアルティメットとはディスクをパスによって運び、敵陣エンドゾーン内で味方からのパスをキャッチすると得点になるという競技だ。フラッグフットボールはアメリカンフットボールを簡単にしたもので、タックルの代わりに腰から下げた「フラッグ

(細長い旗)を奪って敵の前進を止める。ゾーンサッカーはルールもコートもフットサルと同じである。ただしゴールネットやポストを用いず、ゴールゾーンと呼ばれるエリアにシュートをする点だけが異なる。

ニュースポーツは正規のルールにとらわれないこと、自分たちの技術や体力に応じて、ルール変更が可能なのが魅力の一つである。実際に競技を行う中で、

「女子が得点したら2点」といったルール変更が学生の意見で行われる。

長谷川准教授は学類の枠を越えて学生たちが仲良くなることを第一に考えており、「同じ授業をとっているのに、名前も知らないのは寂しいこと」と語る。

そこでこの授業では、兄弟チームという形をとっている。全体をいくつかのグループに分け、さらにグループを2つに分ける。兄弟チーム同士が対戦することはないので、互いを応援し合うようになるようだ。グループ内で補充する。兄弟チームを動かすことを楽しむスポーツなのだ。



フラッグを奪って攻撃を阻止する(フラッグフットボール)

ゴルフ

ゴルフやチーム内の結束は強く、先生には「この前編パーティーしたんですけど」という報告がくることも。授業を受講している横溝由佳さん(比文1年)は「ニュースポーツは皆がやったことのない競技をするから、上手い人と下手な人の差があまりないし、ルールも簡単でやりやすい。スポーツが苦手な人でも楽しめると思う」と語る。

毎年、体育に苦手意識を持つ学生の受講が多いが、学期末には皆「楽しかった」「笑顔を見せるといい」と、ニュースポーツとは個人の体力差に関係なく、皆が純粋に体を動かすことを楽しめるスポーツなのだ。



実践に備えパターの練習をする

コースで実戦練習

行つ。和やかな雰囲気の中、1回約30人の学生が集まり、授業を受けている。ゴルフ初心者が大半を占める授業では、基礎から丁寧に教わる。「ゴルフは打つ感触が大事。その感触が分かると、ゴルフの楽しさが実感できる」と、授業を担当する白木仁教授(体育)は語る。

1学期はクラブの構えに始まり、2、3メートル離れた小さなボールを打ち入れるまで、一から指導が行われる。特にアドレス(構え方)は最も重要であり、アドレスの3要素であるグリップ(クラブの握り)、ポスチャー(身体の角度)、スタンス(立ち位置)を意識して取り組む。白木教授は、生徒が飽きてきたと感じた時点で次の段階に練習を進め、生徒が自発的に取り組めるよう工夫しているそうだ。

2学期には、集中授業で実際のコースをグループで回りながら、思った通りの場所に打てる技術の習得に力を入れる。また、その際に取り組む。また、その際にゴルフ場でのマナーも学ぶことができる。

3学期は、ショートゲームを中心とした練習を行う。陸上競技場に設けられたミニコースをグループで回り、賞品にジュースをかけて競い合ったりもする。

仲間との結束固く

授業で工夫している点について橋直隆教授(体育)は「学生たちに、体を動かすことの楽しさを味わってもらい、将来的にも体を動かすモチベーションを持つきっかけとなってもらいたい」と話している。

サイクリングにはさまざまな魅力があるが特に「スピード、克服、旅」の中に醍醐味があるという。自転車は、人力のなかでは最大のスピードが得られる乗り物だ。きついコースを走り切り、克服した時の達成感や、自然の中をサイクリングの醍醐味を感じながら走るのはいかだろっか。



自転車ですっきりとコースを駆ける

授業で工夫している点について橋直隆教授(体育)は「学生たちに、体を動かすことの楽しさを味わってもらい、将来的にも体を動かすモチベーションを持つきっかけとなってもらいたい」と話している。

サイクリングにはさまざまな魅力があるが特に「スピード、克服、旅」の中に醍醐味があるという。自転車は、人力のなかでは最大のスピードが得られる乗り物だ。きついコースを走り切り、克服した時の達成感や、自然の中をサイクリングの醍醐味を感じながら走るのはいかだろっか。

つくばマラソン

スタートを告げるヒストリーの音と共に、1万人を超えるランナーが一斉に走り出す。ランナーはさまざまなおもてなしが用意されている。195キロの旅路を駆け抜けた場所を走っているときは、特に気持ちがいいという。

受講生へ向けて、橋教授は「最近では自転車の空気も入れられない生徒もいる。そのような当たり前のことを実際に体験することだ。体を動かす楽しさを知って欲しい」と言葉を贈った。つくばの雄大な自然の中をサイクリングの醍醐味を感じながら走るのはいかだろっか。

スタートを告げるヒストリーの音と共に、1万人を超えるランナーが一斉に走り出す。ランナーはさまざまなおもてなしが用意されている。195キロの旅路を駆け抜けた場所を走っているときは、特に気持ちがいいという。

毎年11月末に行われるつくばマラソン。つくばは名物の自由科目の「つくばマラソン」を受講した学生が毎年90人ほど参加している。大

自然の中を駆けぬける

グループのメンバーがいるのを確認し、自転車にまたがり、つくばの自然の中を駆け抜けていく。サイクリングの授業の中の光景だ。

サイクリングの授業の規模は1クラス40名程度で、走る距離は約10-25キロメートル。サイクリング場を出発し、大学周辺を走るコースだ。使用する自転車は、普段学生が使用しているものよりも競技に近い快走車が出される。

また、授業は1年間を前後期に分けて行われてい



昨年のつくばマラソンでの「コマ

新しい自分に出会う

と、授業を担当する鍋倉賢治准教授(体育)は話す。授業は講義と実技が中心。講義は生理学や栄養学など、マラソンを走る上で必要なことを専門の教員が講義するという形式をとっている。実技は本学周辺のランニングが中心だが、授

果たした人もいるという。記録以外の面でも、学生にとっては大きな飛躍がある。マラソンを通して自分自身と対峙し、弱い自分を受け入れ、乗り越えていく。受講している比文の女子学生は、「マラソンは苦しいし、1年生に一度はフルマラソンに挑戦してほしい」と話している。未受講生には、「新しい自分に出会いたいと思う人は、ぜひチャレンジしてほしい」とメッセージを送る。つくばマラソンまであと2カ月。今年はどんなドラマが生まれるのだろうか。

学院の正式科目となった今年、150人ほどの学生が毎回の授業に参加している。運動が苦手であったり、本格的なスポーツをこれまでやってこなかった学生ほど熱心になる傾向があるという。何度も受講する学生も少なくなく、「学群時代から受け続け、今年で7回大会に参加し続け、入賞を目ざしている」と話す。

授業が始まったのは今から18年前。それからすでに20年近く続いており、受講者はべ1000人を超えた。「こんなに続くとは正直思っていなかった。エネルギーの無駄とも思っているが、筑波大生のいいところですね」と鍋倉准教授は笑顔で話す。

鍋倉准教授は学生に対して、「1年生に一度はフルマラソンに挑戦してほしい」と話している。未受講生には、「新しい自分に出会いたいと思う人は、ぜひチャレンジしてほしい」とメッセージを送る。つくばマラソンまであと2カ月。今年はどんなドラマが生まれるのだろうか。

「墨流し水球絵画」 世界初の宇宙芸術作品

本学の逢坂卓郎教授(芸)が企画した「墨流し水球絵画」が9月9日、国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」内で制作された。この作品は世界初の宇宙芸術作品である。

宙に浮かぶカラフルな球 「きぼう」内で制作

細い管から静かに水を吹き出すと、水は重力の影響を受けずに宙に浮かぶ。この現象を利用して、カラフルな液体を混合し、宙に浮かぶ球状の絵画を作った。この作品は世界初の宇宙芸術作品である。

病院内でお弁当アート

本院附属病院リニューアランチームが、病院内でアート作品を制作した。この作品は、病院内の環境を改善し、患者の心を癒やすことを目的としている。



オーロラカップのカーテンが光を受けて輝く

原点 GEN-TEN

私は現在、応用理工学類1年「化学実験」と2年「化学II」を担当している。傍目には「化学」の先生に映るであろう。また、研究は「光合成で機能する葉緑素の研究」なので、「生物」に見えるかもしれない。しかし、大学に入る直前まで「化学や生物」とはあまり縁がなかった。

多分野に興味を持った青春 たどり着いた葉緑素の道

私は現在、応用理工学類1年「化学実験」と2年「化学II」を担当している。傍目には「化学」の先生に映るであろう。また、研究は「光合成で機能する葉緑素の研究」なので、「生物」に見えるかもしれない。しかし、大学に入る直前まで「化学や生物」とはあまり縁がなかった。



小林 正美

私は現在、応用理工学類1年「化学実験」と2年「化学II」を担当している。傍目には「化学」の先生に映るであろう。また、研究は「光合成で機能する葉緑素の研究」なので、「生物」に見えるかもしれない。しかし、大学に入る直前まで「化学や生物」とはあまり縁がなかった。

私は現在、応用理工学類1年「化学実験」と2年「化学II」を担当している。傍目には「化学」の先生に映るであろう。また、研究は「光合成で機能する葉緑素の研究」なので、「生物」に見えるかもしれない。しかし、大学に入る直前まで「化学や生物」とはあまり縁がなかった。

私は現在、応用理工学類1年「化学実験」と2年「化学II」を担当している。傍目には「化学」の先生に映るであろう。また、研究は「光合成で機能する葉緑素の研究」なので、「生物」に見えるかもしれない。しかし、大学に入る直前まで「化学や生物」とはあまり縁がなかった。

私は現在、応用理工学類1年「化学実験」と2年「化学II」を担当している。傍目には「化学」の先生に映るであろう。また、研究は「光合成で機能する葉緑素の研究」なので、「生物」に見えるかもしれない。しかし、大学に入る直前まで「化学や生物」とはあまり縁がなかった。

私は現在、応用理工学類1年「化学実験」と2年「化学II」を担当している。傍目には「化学」の先生に映るであろう。また、研究は「光合成で機能する葉緑素の研究」なので、「生物」に見えるかもしれない。しかし、大学に入る直前まで「化学や生物」とはあまり縁がなかった。

私は現在、応用理工学類1年「化学実験」と2年「化学II」を担当している。傍目には「化学」の先生に映るであろう。また、研究は「光合成で機能する葉緑素の研究」なので、「生物」に見えるかもしれない。しかし、大学に入る直前まで「化学や生物」とはあまり縁がなかった。

私は現在、応用理工学類1年「化学実験」と2年「化学II」を担当している。傍目には「化学」の先生に映るであろう。また、研究は「光合成で機能する葉緑素の研究」なので、「生物」に見えるかもしれない。しかし、大学に入る直前まで「化学や生物」とはあまり縁がなかった。

私は現在、応用理工学類1年「化学実験」と2年「化学II」を担当している。傍目には「化学」の先生に映るであろう。また、研究は「光合成で機能する葉緑素の研究」なので、「生物」に見えるかもしれない。しかし、大学に入る直前まで「化学や生物」とはあまり縁がなかった。

私は現在、応用理工学類1年「化学実験」と2年「化学II」を担当している。傍目には「化学」の先生に映るであろう。また、研究は「光合成で機能する葉緑素の研究」なので、「生物」に見えるかもしれない。しかし、大学に入る直前まで「化学や生物」とはあまり縁がなかった。

私は現在、応用理工学類1年「化学実験」と2年「化学II」を担当している。傍目には「化学」の先生に映るであろう。また、研究は「光合成で機能する葉緑素の研究」なので、「生物」に見えるかもしれない。しかし、大学に入る直前まで「化学や生物」とはあまり縁がなかった。

私は現在、応用理工学類1年「化学実験」と2年「化学II」を担当している。傍目には「化学」の先生に映るであろう。また、研究は「光合成で機能する葉緑素の研究」なので、「生物」に見えるかもしれない。しかし、大学に入る直前まで「化学や生物」とはあまり縁がなかった。

私は現在、応用理工学類1年「化学実験」と2年「化学II」を担当している。傍目には「化学」の先生に映るであろう。また、研究は「光合成で機能する葉緑素の研究」なので、「生物」に見えるかもしれない。しかし、大学に入る直前まで「化学や生物」とはあまり縁がなかった。

バイオカフェ 体と薬の関係を講演

本学で研究されている先端科学に親しむことができる「バイオカフェ」が9月16日、総合交流会館多目的ホールで開催された。

本学で研究されている先端科学に親しむことができる「バイオカフェ」が9月16日、総合交流会館多目的ホールで開催された。

本学で研究されている先端科学に親しむことができる「バイオカフェ」が9月16日、総合交流会館多目的ホールで開催された。

本学で研究されている先端科学に親しむことができる「バイオカフェ」が9月16日、総合交流会館多目的ホールで開催された。

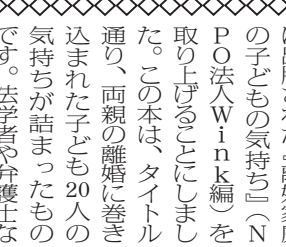
子どもに無力な家族法 離婚家庭の子どもの気持ち

私の専門である家族法や社会保障法にも関わりつつ、広く学生さん達に読んでほしいという思いで、2008年4月に出版された『離婚家庭の子どもの気持ち』(NPO法人Wink編)を取り上げることにしました。

私の専門である家族法や社会保障法にも関わりつつ、広く学生さん達に読んでほしいという思いで、2008年4月に出版された『離婚家庭の子どもの気持ち』(NPO法人Wink編)を取り上げることにしました。

私の専門である家族法や社会保障法にも関わりつつ、広く学生さん達に読んでほしいという思いで、2008年4月に出版された『離婚家庭の子どもの気持ち』(NPO法人Wink編)を取り上げることにしました。

私の専門である家族法や社会保障法にも関わりつつ、広く学生さん達に読んでほしいという思いで、2008年4月に出版された『離婚家庭の子どもの気持ち』(NPO法人Wink編)を取り上げることにしました。



本澤 巳代子

私の専門である家族法や社会保障法にも関わりつつ、広く学生さん達に読んでほしいという思いで、2008年4月に出版された『離婚家庭の子どもの気持ち』(NPO法人Wink編)を取り上げることにしました。

私の専門である家族法や社会保障法にも関わりつつ、広く学生さん達に読んでほしいという思いで、2008年4月に出版された『離婚家庭の子どもの気持ち』(NPO法人Wink編)を取り上げることにしました。

私の専門である家族法や社会保障法にも関わりつつ、広く学生さん達に読んでほしいという思いで、2008年4月に出版された『離婚家庭の子どもの気持ち』(NPO法人Wink編)を取り上げることにしました。

私の専門である家族法や社会保障法にも関わりつつ、広く学生さん達に読んでほしいという思いで、2008年4月に出版された『離婚家庭の子どもの気持ち』(NPO法人Wink編)を取り上げることにしました。

私の専門である家族法や社会保障法にも関わりつつ、広く学生さん達に読んでほしいという思いで、2008年4月に出版された『離婚家庭の子どもの気持ち』(NPO法人Wink編)を取り上げることにしました。

私の専門である家族法や社会保障法にも関わりつつ、広く学生さん達に読んでほしいという思いで、2008年4月に出版された『離婚家庭の子どもの気持ち』(NPO法人Wink編)を取り上げることにしました。

私の専門である家族法や社会保障法にも関わりつつ、広く学生さん達に読んでほしいという思いで、2008年4月に出版された『離婚家庭の子どもの気持ち』(NPO法人Wink編)を取り上げることにしました。

私の専門である家族法や社会保障法にも関わりつつ、広く学生さん達に読んでほしいという思いで、2008年4月に出版された『離婚家庭の子どもの気持ち』(NPO法人Wink編)を取り上げることにしました。

私の専門である家族法や社会保障法にも関わりつつ、広く学生さん達に読んでほしいという思いで、2008年4月に出版された『離婚家庭の子どもの気持ち』(NPO法人Wink編)を取り上げることにしました。

私の専門である家族法や社会保障法にも関わりつつ、広く学生さん達に読んでほしいという思いで、2008年4月に出版された『離婚家庭の子どもの気持ち』(NPO法人Wink編)を取り上げることにしました。

私の専門である家族法や社会保障法にも関わりつつ、広く学生さん達に読んでほしいという思いで、2008年4月に出版された『離婚家庭の子どもの気持ち』(NPO法人Wink編)を取り上げることにしました。



笑いを交えながら話す三輪講師

第77回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子が5年ぶりの総合優勝

齋藤 男子、山野辺 女子、同点1位も総合優勝逃す



第77回日本学生陸上競技対校選手権大会が9月12-14日にかけて、国立競技場(東京・渋谷区)で行われた。対校得点で競う総合優勝では、男子が大接戦の末5年ぶりの優勝を果たした。女子も総合得点では福島大と同点1位であったが、優勝種目数で下回り、2年連続で2位にとどまった。種目別の優勝は、男子2000メートルの齋藤仁志(体専3年)と女子砲丸投げの山野辺薫(同4年)の2種目だった。男子は最終日に2000メートルで、女子は砲丸投げで2000メートルで、優勝の原動力となった。



齋藤仁志



山野辺薫

女子は砲丸投げで山野辺が14秒97で優勝。総合得点は、最後の1600メートルで優勝を逃した形だ。大山圭悟監督(体育・講)

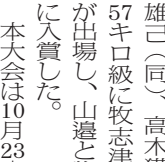
師)は、「男子は1点1点の積み重ねが総合優勝につながったのだと思う。一方で9位の選手が多く、女子も含めて悔しい思いをしたと思うので、それをバネに来年に向けて頑張っていきたい」と話した。

平成20年全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 牧、山邊が惜しくも3位 悔しさ残る結果に

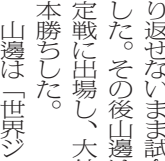


柔道

平成20年全日本ジュニア柔道体重別選手権大会が9月13-14日、埼玉県立武道館(尾花)で開催された。本学からは66キロ級に田中浩平(体専1年)、小倉武蔵(同)、81キロ級に山邊雄己(同)、高木隼(同)、57キロ級に牧志津香(同)が出場し、山邊と牧が3位に入賞した。



山邊雄己



牧志津香

入江が大会新を樹立 男女とも大学対抗で4位



水泳

第84回インカレ
学生日本一を決める第84回日本学生選手権水泳競技大会が、9月5-7日にかけて、東京辰巳国際水泳場で開催された。本学からは、28人が出場し、入江晋平(体専4年)が100メートルバタフライで、大会新を更新し、優勝。男子2000メートル平泳ぎでは、角川隆明(同)

が3位、50メートル自由形では水落夏海(同)が3位に入賞した。また、男子、女子とも大学対抗では4位に終わった。

大会記録の52秒88を上回る、52秒72で予選通過した入江。決勝でも序盤からハイペースな泳ぎで50メートルトップでターン。そのまま他の選手を突き放し、2位の高本翔太(法政大4年)に1秒近い差をつけ、52秒40で優勝。自身が予選で樹立した大会新を更新する圧倒的な強さを見せた。入江は、「予選は不安だった。決勝では手応えがあった。4年間の夢が叶い、チームへの恩返しができるようになった」と語った。

茨城県社会人リーグ3部 市内の2チームが激突 SPR因縁の対決制す



サッカー

つくば市を拠点とするクラブチーム「SportivaTsukuba」(SPR)と、本学蹴球部が組織するTSC(つくば)は、「1つば市にプロサッカーチームをつくる会」が創設したチームで、本学蹴球部員が中心となり県社会人リーグ4部で優勝し、昇格を果たす。だが、今年になり蹴球部の方針で、チームの大半を占めた蹴球部員が抜け、新たにTSCを立ち上げ、現在両チームは同じ3部リーグに所属する。この試合の前までSPRは全勝、TSCは1敗と互いに上位を維持。負ければ昇格が遠のく中、熱戦が行われた。



ゴールへ駆け上がるSPRつくばの高麗祐輔選手(右)

試合は序盤こそTSCペースだったが、徐々に膠着状態へ。そんな中、SPRは先制し、その

後、同会は試合の補助などを募るマネージャーを募集。詳細は「eiv_ever@f0112@docomo.ne.jp」

顔

北京五輪陸上競技1600メートルリレーに本学の安孫子充裕(体専2年)が出場した。安孫子は「鳥の巣」の中でスタート体勢に入ったとき、「自分のやるべきことだけをやる」と心に決めた。



北京五輪リレーに出場 安孫子充裕(体専2年)

持ち味は序盤のスピード

しかし、為末にバトンを渡すときの順位は最低位。「力が及ばなかった。悔しい」と安孫子は振り返る。結果は予選敗退。北京の風は安孫子に味方しなかったのだろうか。安孫子の専門とする400メートルでは、始

めたいと思った」と立時を振り返る。しかしそれでもやめなかったのは、孫子は加藤博男教授(体育)の授業中のある言葉が非常に印象に残っているという。それは「練習は、できるだけ早くやる」ということだ。

関東学生剣道優勝大会 男女共に全日本出場へ

大学剣道男子団体の日本一を決める第56回全日本学生剣道優勝大会の予選を兼ねた、第57回関東学生剣道優勝大会が9月14日、日本武道館(東京・千代田区)で開催された。同大会には93校が出場。本学はベスト8の成績で、10月26日に東京で行われる、全日本大会への出場権を得た。

本学は、準々決勝へと勝ち進んだ。相手は昨年度優勝校の國士館大学だった。1-2で敗れ、敗退が決まった。副主将の高橋健(体専4年)は「全然満足はしていない。全日本は優勝したい」と意欲的だ。また、鍋山隆弘監督(体育・講師)も、「全体的に内容は良かった。いい試合ができたと思う。全日本まではそのない稽古をする」と話した。

サッカー

つくば市を拠点とするクラブチーム「SportivaTsukuba」(SPR)と、本学蹴球部が組織するTSC(つくば)は、「1つば市にプロサッカーチームをつくる会」が創設したチームで、本学蹴球部員が中心となり県社会人リーグ4部で優勝し、昇格を果たす。だが、今年になり蹴球部の方針で、チームの大半を占めた蹴球部員が抜け、新たにTSCを立ち上げ、現在両チームは同じ3部リーグに所属する。この試合の前までSPRは全勝、TSCは1敗と互いに上位を維持。負ければ昇格が遠のく中、熱戦が行われた。

大学剣道女子団体の日本一を決める第27回全日本女子学生剣道優勝大会の予選を兼ねた、第34回関東女子学生剣道優勝大会が9月20日、東京武道館(東京・足立区)で開催された。同大会には88校が出場した。昨

年には「全然満足はしていない。全日本は優勝したい」と意欲的だ。また、鍋山隆弘監督(体育・講師)も、「全体的に内容は良かった。いい試合ができたと思う。全日本まではそのない稽古をする」と話した。



談笑する参加者たち

10月は雙峰祭!!

交流楽しみ語学を学ぶ 広がる国際交流の輪

白岩教授は「参加者個々の交流も芽生えており、うれし...

受賞2作品が決定

「車椅子から」眺めた社会

追悼 菊地堯さん

筑波大オリジナルグッズ トイレットペーパーで本学をPR



大学の豆知識が載っている「ツクルクルツ」

学生らが企画、商品化 古紙リサイクルも視野に

中学生の映画を上映

筑波学生文芸賞

受賞2作品が決定

学生へ注意促す

原料高などコストの問題が起ったり、コンセプトの決定に時間がかかったり...

「お客さんがたくさん来てくれて嬉しい。お客さんを含め、多くの人に感謝している」と語った。



質問に答える「つくちゅう」たち

8月下旬から9月にかけて、ひたたくり事件が多発している。

Who's Who?



「おとなび」を手にする武谷さん

国立科学博物館「おとなび」作成

武谷真由美さん(生物科学2年)

道端に咲いているタンポポが、コーヒーとして飲めることを知っている人が何人いるだろうか。味は苦くはなく、香ばしい麦茶のようだという。国立科学博物館2階たけん広場で配布された「おとなび」の裏面にはタンポポの知られざる世界が広がっている。「おとなび」とは、小学生くらいの子どもの目線で起る科学の不思議を説明する「大人のためのカンニングペーパー」。A3サイズの紙がミウラ折りという人工衛星のパネルにも応用されている特殊な折り方だ。たたみ、手ならす、折り納まるよう出来ている。今年、武谷真由美さん(生物科学2年)と京都大学大学院生2人が制作(本紙9月号に記事掲載)。これは、国立科学博物館と大学が

大人の科学はなれを危惧 原理を理解する感動を

「おとなび」の裏面にはタンポポの知られざる世界が広がっている。「おとなび」とは、小学生くらいの子どもの目線で起る科学の不思議を説明する「大人のためのカンニングペーパー」。A3サイズの紙がミウラ折りという人工衛星のパネルにも応用されている特殊な折り方だ。たたみ、手ならす、折り納まるよう出来ている。今年、武谷真由美さん(生物科学2年)と京都大学大学院生2人が制作(本紙9月号に記事掲載)。これは、国立科学博物館と大学が

「おとなび」を手にする武谷さん

第11回ホームカミングデー

卒業生との交流会

第11回ホームカミングデーが10月11日、午前10時から午後2時にかけて本学の大会館・総合交流会館の発展に貢献する目的で、

校長らが受験指導

本校の卒業生とその家族を招待するもの。今回は昭和63年度3月卒業(医学専門)の卒業生は平成2年3月卒業の卒業生とその家族が対象とされる。

教員関係就職ガイダンス

校長らが受験指導

教員を目指す学生を対象に、教員関係就職ガイダンスが開かれる。初回は、10月22日午後1時45分〜午後3時45分に、総合研究棟A111で、教員試験合格者が体験談を語る。

CO2削減

全学で節電に取り組む

9月18日から全学に「CO2削減のため電気使用量を5%削減」というポスターが掲げられている。節電につながる具体的な措置に全学で取り組んでいくことと広報している。

第24回MC展

日ごろの成果を発表

本学大学院芸術研究科・人間総合科学研究科前期美術専攻の洋画・日本画・版画学生による作品展(MC展)が開かれる。

次号は

11月10日(月)

発行予定です

大学会館書籍部ベストセラー

1	容疑者Xの献身	東野圭吾/文芸春秋
2	砂漠	伊坂幸太郎/実業之日本社
3	たった3秒のパソコン術	中山真敬/三笠書房
4	魔王	伊坂幸太郎/講談社
5	流星の絆	東野圭吾/講談社
6	宗教学の名著30	島園進/筑摩書房
7	リアルの中のくえ	大塚英志/講談社
8	O型自分の説明書	Jamais Jamais/文芸社
9	少しだけ欠けた月	重松清/文芸春秋
10	夢をかなえるソウ	水野敬也/飛鳥新社

今月の1位は東野圭吾の「容疑者Xの献身」。

催事

展覧会

茨城県近代美術館コレクション展「安藤信哉・小堀進・永瀬義郎の世界」

講演会

人文科学文化講演会「アンコール遺跡の学術調査と修復事業」

筑波自然図鑑

◇チュウシャクシギ◇

撮影地=千葉県三番瀬



春や秋に休耕地や干潟で見られる渡り鳥。シベリアなどで繁殖し、越冬のため東南アジアやオーストラリアへ渡る。日本は、その旅の中継地だ。茨城の浮島、谷田部などでも見られる。チュウシャクシギは体長40センチ、くちばしは丸い。羽は茶色と黒の模様が特徴的。シギチドリ仲間。長くくちばしを巧みに使い、餌となるミミズやカニ、ゴカイなどを捕まえる。長い旅の途中、田んぼで餌を探すのに夢中になっている姿を見ると「お疲れ様」と声をかけたくなる。(写真:文川嶋隆司、生物4年 野生動物研究会)